

令和4年11月2日

京口門だより No. 109

ようやく秋らしい日々が訪れ紅葉も見ごろとなりましたが、今月7日は早や立冬となります。新型コロナ感染症も収束しかかっているのか、第8波となってインフルエンザと併発してくるのか不明です。何かと不安定な世情です。

「行く秋や雲はあわれに水はかなし」(青蘿)

今回は関節リウマチの話をしたと思います。リウマチという言葉は流れるという意味であると言われていて、体中の関節があちこち腫れて痛んでくることを意味します。とくに関節滑膜の免疫異常による炎症が起こり、次第に関節破壊が進んでくるという病気です。自分自身の関節組織に対して免疫反応が起こってくるので、他の膠原病と同じく自己免疫疾患と呼ばれる特異的な病気です。どのようにして発症するのか次第に明らかにされつつありますが、不明な点もあります。これまで見つけられた病因として、遺伝的に起こりやすい人があることです。血縁者に関節リウマチがあると自分もかかり易いと言われてます。遺伝的要因ばかりでなく、色々な環境要因も発症に関わると言われています。例えば喫煙は関節リウマチを起こす誘因と言われています。また歯周病や腸内細菌の異常またウィルス感染症なども発症に関わっています。女性では閉経後に発症しやすいと言われています。食生活の上でもアルコールや砂糖類の摂りすぎは発症しやすくし、オメガ3といわれる不飽和脂肪酸の摂取が少ないことは発症リスクを高めるとも言われています。

関節リウマチは発症しやすい遺伝的な要因があっても、長い間(15~20年)の潜在期間の後に、先に述べた環境要因が引き金になって急に発症してくると言われています。

漢方医学でも古くから関節リウマチという病気を知っていて、歴節病あるいは歴節風と呼んでいました。歴節とは身体中の関節が次々と炎症を起こしてくることを指しています。また激しい関節痛を白虎歴節病とも言い。虎が噛むような痛みと表現しています。また歴節病が長引いてくると鶴膝風という名前があり、膝関節が腫れ痛みちょうど鶴の脚の瘤のようになるという意味です。漢方でも難治の病として治療に難渋していたようです。

今回は病気の病因とその症状についてのべましたが、治療のことは次回に述べたいと思います。

